

# 平成30年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4	-	3	-	3
事務事業名	側溝清掃事業				担当課係	都市整備課			
総合計画上の位置付け	政策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり			記入担当者				
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり			内線等				
	施策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備			E-mail				
	基本方針	2-1-1 道路・交通網の整備							
事業の実施主体					事業区分	経常事業			
事業予算費目	款	8	土木費	項	3	道路橋梁費			
	目	2	道路橋梁維持費	事業	4	側溝清掃事業			
開始年度			年度	根拠法令・要綱等		道路法、小松島市市道側溝清掃事業実施要綱			

## ■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市道側溝等
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 側溝内に土砂汚泥が堆積している箇所では、通水性が悪くなっており大雨時に浸水被害が生じる恐れがある。そこで側溝清掃を実施することで側溝の本来の排水性を確保し、道路機能の維持及び浸水被害の軽減を目的として実施するものである。
事業の内容 (内容・手法等)	(こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 浸水常襲地区での土砂堆積状況の調査や市民から要望・連絡があった箇所での調査を行い、それらの市道側溝のうちの半分程度の深さまで土砂汚泥の堆積が確認された箇所について、優先度の高い順に委託による清掃作業を順次実施する。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 側溝等の清掃事業においては、平成26年度まで市環境衛生センターが市民の依頼に基づき清掃を実施していたが、平成27年度より市道側溝においては道路維持管理者である都市整備課が担当となって、市が調査を行い、清掃業務に関しては業務委託にて実施している。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	側溝清掃箇所		側溝等において浚渫及び除草を実施した箇所					
	単位	H29	H30	R1	R2	目標年度 目標値		
箇所	目標	20	20	20	20	R2		
	実績	15	31			20		
	達成度	75.0%	155.0%					
活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H29	H30	R1	R2	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

		29年度決算	30年度決算	30年度予算	R1年度予算	
全体コスト(円)	A 直接事業費	11,831,400	14,191,024	15,000,000	15,000,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債				
		利用者負担				
	B 一般財源	11,831,400	14,191,024			
	B 人件費 ①×②	職員平均人件費①	7,903,566	4,261,755		
		従事した割合②/人	0.60	0.80		
A + B		16,573,540	17,600,428			
単位コスト	活動指標の説明	側溝等清掃箇所数	側溝等清掃箇所数	備考		
活動指標 1 単位当たりコスト		1,104,903	567,756	平成29年4月1日現在 人口38,817人		
市民一人あたりのコスト		427	461	平成30年4月1日現在 人口38,156人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺状況等や今後の予測) 用水路や排水路については水利組合や地元の協議会、自治会等で清掃を行ってきたが、昨今では機能していない地域も出てきている。また、清掃実施後に再度土砂や汚泥が溜まったり草が繁茂するといった現状があり、側溝の構造的な補修や改修を行わなければ解決しない箇所も出てきている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市道側溝以外にも、用水路や排水路、また、私有地箇所の側溝においての清掃を望む声も多くなっている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	道路機能維持や浸水被害軽減・防止など、市民が安全・安心に暮らせるまちづくりの一環として欠かせないものである。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	市道側溝においては道路管理者である市が清掃を実施することが妥当であると考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	側溝調査、清掃の手配は市が行っているが、直接の清掃に関しては業者に委託していることから、どちらかといえば効率的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	側溝への土砂・汚泥の堆積による排水性の低下は、浸水被害の増加につながるため継続して、事業を行っていく必要がある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	市道側溝等において、通水性が確保されるなど一定の成果が認められている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	側溝清掃箇所の調査・業者への手配・清掃が実施されるまで一定の期間を要しており、今後は、より速やかに実施対応できる業務運用が求められている。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	市民からの要望が多く、事業自体の必要性の高さや、市の管理により一定の成果が上げられていることから、引き続き事業を継続することに至った。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	低平地が広がり河川が多い本市においては、浸水被害対策で本事業は重要な位置づけとなっており、限られた予算の中で、より効率的効果的に事業継続していくものである。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	